

本日の  
プログラム

# ガバナー公式訪問

RI第2510地区ガバナー  
大日向 豊吉 氏

## インターアクト活動報告、バッジ授与 北海高校インターアクトクラブ

部長 近藤里桜 さん

札幌東ロータリークラブの皆さまには私たちの活動にご支援いただき、本日は新入部員へのバッジ授与と活動報告の場を設けていただき、ありがとうございます。

私たちが今できることは社会に存在する諸問題について少しでも知ることだと考え、SDGsの17のゴールに合わせて部員を17のグループに分け、それぞれがゴールについて調べ、プレゼンテーションを行いました。すると、1つのゴールの達成には他のゴールとも繋がりがあることがわかりました。本日は、その中から私たち3人が担当したゴールについて、それぞれお伝えします。

私のグループはSDGsのゴール10番「人や国の不平等をなくそう」を担当しました。不平等の根底には差別と偏見があると考え、アメリカ黒人に着目し調べました。アメリカでは奴隷の歴史が長すぎたためか、黒人への偏見は根強く残っているのではと思います。最近でもアメリカの白人警察官が黒人に暴力をふるって死なせたことが大きな問題となりました。こうした社会問題から目を背けてはいけなく改めて痛感しています。

次に、フェアトレードについて紹介します。これは、発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することを通して、途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す運動のことです。私たちの身近にフェアトレードの商品があることで、この取り組みへのささやかな協力ができます。

また、「人や国の不平等をなくす」ための解決策は、教育だと考えました。人権の尊重について小さな頃から学ぶことで、差別という考えを無くせるのではと思います。また、教育を受けることで読み書きができるようになり、知識や技術を得て職に就くことができます。小さい頃に見たものや聞いたことは、自分という人間の基盤を作っていくと思います。

鴻江桃歌 さん

私もSDGsのゴール10番について調べました。そして、ゴール10番に関連性のあるゴール5番「ジェンダー平等を実現しよう」とゴール16番「平和と公正をすべての人に」についてもお伝えします。

まず、私たちも黒人差別について調べました。アメリカの囚人数は黒人男性が多く、白人の比率の6.5倍だそうです。また、選挙のルールは州ごとに決められ、黒人から投票権をなく奪しようとする州も存在し、黒人への差別や偏見はいまだに根強く残っていることがわかり、悲しい気持ちになりました。

次にゴール5番のジェンダー平等についてです。目標の達成には大事なことが以下6つあります。

- ①全ての女性と女の子に対するあらゆる差別をなくす。
- ②女性や女の子を売買したり、性的にまたはその目的で一方向的に利用することを含め、あらゆる差別をなくす。
- ③子どもの結婚、早すぎる結婚、強制的な結婚など、女性や女の子を傷つける習わしをなくす。
- ④お金が支払われない家庭内の家事・子育て・介護などは、お金が支払われるのと同じくらい大切な仕事であるということを知ってもらう。
- ⑤政治や経済や社会の中で何かを決める時に、女性も男性と同じように参加したり、リーダーになったりできるようにする。
- ⑥国際的な会議で決定したことに従って、世界中の誰もが同じよ



うに性に関する事や子供を産む事に関する健康と権利が守られるようにする。

最後に、ゴール16番「平和と公正をすべての人に」についてです。平和で公正な世界を実現するためには、世界中の人たちが差別されない、暴力を受けることがない、災害や紛争に苦しまない、安心で安全な生活を送る、同じ立場で公平に話し合い、助け合うことが大事です。そのために、皆が一緒に世界平和の実現に取り組む必要があります。

金澤咲来 さん

私のグループはSDGsのゴール12番「つくる責任つかう責任」について調べました。そして、その事に繋がりがあると思う、ゴール1番「貧困をなくそう」とゴール2番「飢餓をゼロに」を含めてお伝えします。

まず、現在の大量生産と大量消費の私たちの暮らしは、地球にとっても大きな負担となっています。

日本では、年間約1,700万トンの食品廃棄物が発生し、そのうち、まだ食べられるのにゴミとなるのは643万トンと約3分の1にもあたり、日本の国民全員が毎日おにぎりを2つ分捨てているのと同じ量になります。まさに「つくる責任つかう責任」を真剣に考えなければならないケースだと思います。

私たちにも毎日の生活の中でできることがあります。「無駄に作らない・買わない」「消費・賞味期限に対する意識」「食べ残しをしない」「使えるものは最後まで使う」「リユース・リサイクル」「マイバッグ・マイボトルの持参」などで、自分たちもできることを心がけていこうと思います。

次に、飢餓問題について調べてみました。私たちが飢餓問題に対して日常的にできる協力の1例として、「レッドカップキャンペーン」があります。これは、WFP表示食品マークがついている商品を購入することで、その売り上げの一部が企業から国連WFPに寄付され、途上国の飢えに苦しむ子どもたちに学校給食を支援する取り組みです。買い物時には、このマークを意識的に見つけてみようと思います。

貧困の問題に関しては、途上国に限らず、今、日本でも6人に1人が相対的貧困の状態にあると言われています。これは決して少なくない数だと思います。また、親から子供へ貧困が連鎖することも問題となっています。

未来の地球の資源を守るために今できることは、世界や日本で起きている事実を知り、自分たちの意識を変えていくことです。貧困や飢餓に対しても同じで、まず現状を知ること、その上で何ができるか、何を選んでいくか、皆が協力して地球と人々を守れるように活動できたら素晴らしいと思います。



■本日のロータリーソング  
君が代、四つのテスト

2021~2022年度 国際ロータリーのテーマ  
「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」  
国際ロータリー会長：シェカール・メータ